

コロナ終息後に向けて

宮司 前 原 利 雄

昨年来、世界中を震撼させ、人々の生命と健康を脅かしている新型コロナウイルスが猛威を奮い、いまだ完全終息の兆しが見通せない中、一年延期になった東京オリンピック・パラリンピックが九月五日迄開催されております。コロナ感染拡大を未然に防ぎ、大会が無事終了することを祈っております。

これまでコロナ感染拡大防止への対策として、政府は緊急事態宣言やまん延防止等重点措置など発出し自治体と連携して様々な自粛要請を行ってまいりましたが、やはり最大の切り札はワクチン接種であります。既に医療従事者・関係者をはじめ高齢者から順次希望者に対し行われ、今秋には希望者全員の接種を完了する予定だそうです。一日も早く、感染者数・重症患者数が目に見えて減少し、大切な命を落とされる人が一人も出ないよう祈念しております。

そしてコロナ流行前のように、人々が安心して外出し経済活動が再開されることを望みます。当社に於きましても、今後の感染状況の推移を慎重に見極め、常にご参拝の皆様様の安心・安全

を図りながら祭典その他諸行事を厳修して参りたく存じます。
▼社報「やきゅうさま」
リニューアル

平成二年九月一日創刊(渡辺一夫宮司)平成御大典を奉祝し、記念事業の一つとして発刊されました。日々の神社の様子や祭典行事のご案内、解説その他様々な情報をお知らせし、当社と氏子崇敬者との絆を更に深めて頂くツールとして三十年余に亘り親しまれてきました。同時に、当社の貴重な歴史・記録・資料ともなっております。

今回、令和の御代替わりに伴い新しい発想をもって、令和の時代に相応しい、そしてコロナ後の当社の新たな姿をお伝えして行ければと考えております。また、一方的な情報発信のみならず、氏子崇敬者の方々との交歓の場となれば幸いに存じます。少しづつ内容を充実させて参りたいと思っておりますので、皆様方からの貴重な情報やご意見ご要望等もお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

▼責任役員・総代改選
当神社規則に基づく任期満了

に伴い、八月一日付にて責任役員四名を含む総代顧問三十一名が就任されました(別掲)。任期は令和六年七月三十一日迄の三ヶ年であります。責任役員・総代は宮司(神社)に協力して尊厳護持、祭祀(祭り)の厳修、神社の適正な運営などに寄与して頂きます。一般的には氏子各地域から代表として選任されますが、他に崇敬者から選任される場合もあります。責任役員(宮司を含む)は、宗教法人法に基づく法律上の機関で、役員会を組織して主に法人事務中重要な事項を決定します。それに対して総代は、法律制定以前から存在する宗教上或いは信仰上の機関で、神社のために何かと協力頂く言わば「神社世話人」とも同様の重要な立場とも考えられます。ご承知の通り祭りは、私たちの先祖や祖父母の時代から受け継いできた慣習によるものが多く、神職のみならず、それぞれの役目を地域の人々が分け合っており、必要な準備を整え、簡素であってもしっかりと奉仕することが大事であります。

残暑見舞い
申し上げます

宮司	前原利雄
責任役員総代	嶋本正雄
同	江野邦夫
同	野口茂
総代顧問	一同
職員	一同